

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

有明工業高等専門学校 自己点検評価委員会

| | |
|--------|-----------|
| (責任者名) | 田中 康德 |
| (役職名) | 自己点検評価委員長 |

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|--|--|---|
| 学内からの視点 | | |
| プログラムの履修・修得状況 | | 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む科目は本校の全学必修科目であるため、全学生が履修できる状況にある。一方、応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む「AI実践」は、受講学生がいなかった。この理由として、令和7年度が本校の教育プログラム初年度であったため、周知不足があったと考えられる。令和8年度からは、本科目が応用基礎レベルの主要科目であることを学生へ周知徹底することで、履修率向上に努めていく。 |
| 学修成果 | | プログラム構成科目を全学生を対象とした必修科目と全学生が受講できる選択科目で構成しており、入学する全学生が履修している。また、毎年度履修学生に対してプログラム構成科目の「授業改善アンケート」を実施し、学修成果に関する結果をFD委員会で確認し、自己点検評価委員会への報告に繋げる。更に自己点検評価委員会での自己点検結果とあわせて、教務委員会での本教育プログラムを含めたカリキュラムの評価・改善に活用する。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度 | | 本教育プログラム受講者である本学学生全員に対して「授業改善アンケート」を実施しており、FD委員会において学生の理解度を把握している。この内容から、学修成果に関する結果を自己点検評価委員会への報告に繋げる。また、自己点検評価委員会での点検結果と合わせて教務委員会での本プログラムカリキュラムの評価・改善につなげる。また授業改善アンケートを授業担当教員にフィードバックし、教員自らによる授業改善に活用している。加えてシラバスに科目のルーブリックが掲載されており、学生自身も理解度を把握できる仕組みとなっている。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度 | | 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む科目は本校の全学必修科目であり、応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む科目である「AI実践」および「人工知能」は卒業に必要な単位に含むことができるため、未修得学生への推奨度は高い。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況 | | 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む科目は、全学必修科目で開講しているため、本プログラムの履修率は実質100%となっている。応用基礎コアⅡ 3-3, 3-4, 3-10、および応用基礎コアⅢについては、プログラム構成科目の「AI実践」と「人工知能」が選択科目であるため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの修得の意義やAI実践の履修に関する説明会を4、5年生全員を対象に開催し、履修率を向上させる。 |
| 学外からの視点 | | |
| 教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価 | | 令和8年3月時点で、本教育プログラムの修了生はいない。 将来的には進路先や活躍状況(評価)を把握し、そのことから、本プログラムの進化改善(カリキュラムの改訂等)を検討する。 |
| 産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見 | | 令和8年3月時点で、本教育プログラムの修了生はいない。 将来的には大学・専攻科、企業等に活躍状況について、アンケート等の調査を検討する。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | | 学内周知やHP等を通して、数理・データサイエンス・AI認定プログラムについて理解を深め、本プログラムを学ぶことの重要性や意義を理解させる。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載 | | 履修学生による「授業改善アンケート」をととして、収集結果の授業担当教員へ開示と自己改善を図る。また、学修成果に関する結果を自己点検評価委員会への報告に繋げ、自己点検評価委員会での点検結果と合わせて教務委員会でのプログラム構成科目の改善に繋げる予定である。 |